



10月朝礼
(10月27日)

発行
江戸川区立
瑞江第二中学校
校長 滝澤 清豪
発行日10月31日
東京都江戸川区
瑞江4-54-1

みなさんおはようございます。
います。

久しぶりの朝礼です。
今日は2つ話をします。
少し長時間にはなりますが、どうしてもみなさんに伝えたい事があるので、しっかりと聞いてください。

まず一つ目の話は、「人生の中で美しいこととは何か」というテーマでお話しします。

私は今年で教員生活41年目を迎えます。もちろん、瑞江二中の教員の中では最も長く勤めている一人です。この41年間、本当にさまざまな経験をしてきました。時代も社会も大きく変化しました。

私が教員になった当初、学校にはまだパソコンがありませんでした。しかし、私は教員になる前から自分のパソコンを持っていました。最初の1学期の中間考査では、その

パソコンを使ってテスト問題を作成しました。そのとき、生徒たちから「先生、プリンターで印刷した字は読みにくいし、冷たい感じがします。先生の書きの方がいいです」と言われたのを覚えています。今では考えられないような反応です。

ICT環境はこの40年余で社会全体に浸透し大きく発達しましたが、学校現場では少し遅れながらも確実に進化してきました。

私が新任として東京都の中心部の学校に赴任した頃、全国の中学校は「荒れている」と言われていた時代でした。幸い私の勤務校は比較的落ち着いていましたが、今の瑞江二中と比べるとまるで別世界でした。

校内暴力が落ち着くと、次に不登校の問題が出てきました。当時は「登校拒否」と呼ばれていました。先生方も保護者も「何とか学校に来てほしい」と強く願い、生徒の

家を訪ねて何度も話し合っている時代でした。体罰もまだ残っており、それを黙認する雰囲気もありました。いじめもありましたが、当時は携帯電話もスマートフォンもなく、SNSのように匿名で悪口を書いたり、ネット上で無視したりするような状況はありませんでした。

部活動にも大きな違いがありました。ガイドラインなどはなく、週6日活動するのが当たり前。私も熱心に指導していた頃は、3か月間休みもなく部活を行ったこともありません。生徒も保護者もそれを当然と受け止め、土日も練習を見に来たり、応援したりと、とても協力的でした。

こうして長年を振り返ると、時代や学校の姿は変わっても、「変わらない美しさ」があると感じます。

それは「頑張る姿の美しさ」です。

人は目標を立て、それに向かって努力し、成果を得ようとします。しかし、努力すれば必ず結果が出るとは限りません。むしろ、どんなに頑張っても結果が伴わないことの方が多いでしょう。

例えば、部活動で全国大会を目指しても、優勝できるのは一校だけ。多くの学校は結果だけを見れば「届かなかった」ことになります。しかし、私は結果よりも、その過程「頑張る姿が美しい」と思っています。

十数年前、私が副校長として勤務していた学校では、全ての運動部が都大会に出場するほど盛んな学校でしたが、私が「美しい」と感じたのは、運動会での生徒たちの姿でした。

その学校では、1年生から3年生までを縦割りにしてチームを組み、学年間のつながりを大切にしていました。特に「表現ダンス」は、生徒が自分たちで曲を選び、振り付けを考え、3年生がリーダーとなって下級生に教えるという自主的な活動でした。先生はあくまで助言役です。

ある年、私は3年生のリーダーたちに「すごいね、3年生が中心になって引っ張るんだね」と話しかけると、「はい、3年生が見本を見せるんです。一番大変だけど、それがうちの学校の伝統です」と答えてくれました。運動会当日、どの生徒も真剣で、ふざける子はい人もいませんでした。みんな全力でした。

終わった後に別の3年生に聞くと、「うちの学校では、一生懸命やらないとカッコ悪いんです。3年生が手を抜いたら、1・2年生に示しがつかない」と言い切りました。女子たちも「一生懸命な姿が一番美しい。真剣にやらない方が恥ずかしい」と言っていました。私はその言葉に感動しました。

「頑張ることが美しい」という意識が、学校全体に根付いていたのです。そして今の瑞江二中も、まさにそのような学校だと感じています。

先日合唱コンクールでも、どの学年・どのクラスも全力で取り組んでいました。特に3年生の歌声は圧巻でした。もし

私が審査員だったら、順位をつけるのは本当に難しかったと思います。どのクラスも力を合わせ、見事なハーモニーを奏でていました。行事に臨む姿勢は全国一と言っても過言ではありません。500人の中学生が共に生活しているのですから、課題があるのは当然ですが、いざという時に心を一つにして取り組む姿、その集中と努力の一瞬が本当に美しかったです。

瑞江二中は、今や「多様性を認め合い、プレゼンテーションで自己表現力を磨く学校」として知られています。結果として学力も向上しました。

しかし、教育目標の最後に「生き抜く力」と掲げているのは、ただ知識を得るためではありません。卒業後に「中学校でこんな力を身につけた」と胸を張って言えるように、多くの経験を積み、自ら成長してほしいという願いが込められています。

3年生の皆さん、卒業までまだ半年あります。どうかこの半年を「まだ半年」ではなく「あと半年もある」と捉えて、

さらに成長し、努力し、美しい姿を見せてください。

SNSを考える

次に2つ目の話です。SNSのトラブルについてお話しします。これは、今年に限ったことではありませんが、ここ数年、特に増えている問題です。今の中学生は、十年前の生徒と比べると、SNSが関わるトラブルの割合がとても高くなっています。私がこの学校に来て8年になりますが、最初のころと比べても、SNSをきっかけにした問題は明らかに増えています。

これは本校だけの話ではありません。全国の中学校で同じような状況が起きています。つまり、社会全体の問題なのです。私は正直に言うと、「SNSなんて、ない方がいい」と思うことがありますが、便利だし、楽しい面もあるのは分かりますが、SNSがなければ生きていけないということはありません。たとえば、私も甘いものが好きですが、なくても生きてはい

ません。

けますよね。それと同じようなものです。

SNSが原因のトラブルには、友人関係やクラスの間関係、部活動など、いろいろな場面があります。いったん解決したように見えても、投稿された内容が完全に消えるわけではありません。たとえば、インスタグラムなどに投稿した写真を削除しても、誰かが保存していたり、他の方法で残っていたりする場合があります。

そうすると、「デジタルタトゥー」といわれるように、ネット上に一生残ってしまうこともありえます。消したつもりでも消えない。それが一生消えない「傷」になることもあるのです。

ある私立高校では、入学のときにネット上の書き込みを確認するという話を聞いたことがあります。確かな情報ではありませんが、会社の採用試験で応募者のネット上の情報を調べる企業があるのは事実です。

もし、軽い気持ちで投稿した内容が将来の進路に影響したらどうでしょうか。

「あのとき、あんなことをしなければよかった」と後悔しても、時間は戻りません。生きていけないわけではないでしょうが、自分の思い描いた人生を歩めなくなる可能性はあります。

もちろん、みなさんただけが悪いとは言いません。社会全体が、まだルールを追いつかせていない面もあります。

しかし、SNSの使い方については、小学校でも中学校でも何度も説明を受けてきたはずですが、それでも、写真を無断で載せたり、特定の人を悪く言ったりといったトラブルがなくなりません。

そして、最初に言い始めた人が、最後は自分が傷つく立場になって終わることもよくあります。そんなことをして、楽しいでしょうか。私は本当に不思議に思います。

私がこうしてSNSの話をするのは、年に一度か二度ぐらいです。でも今回は、どうしても自分の言葉でみなさんに伝えたいと思って、この時間を取りました。

SNSの問題は、学校だけで解決できるものではないです。

ありません。使っているのは家であり、スマホを買い与えているのは保護者の方々です。だから私は、保護者の方にも「責任を持って管理してください」とお願いしています。

家庭でルールを決めている家もあるでしょうし、そうでない家もあるかもしれません。でも、君たちはスマホを「使わせてもらっている」立場です。そのことを忘れないでください。

SNSで他人を傷つけたら、からかったりするとは、絶対にしてはいけません。SNSは便利で楽しい道具ですが、使い方を間違えると、人を深く傷つけ、自分の人生さえも狂わせることがあります。

「学校は関係ない」と思うかもしれませんが、実際には、学校での人間関係の問題がSNS上に持ち込まれることも多く、保護者から「先生、何とかしてください」と言われることもあります。

学校で完全に管理することは難しいですが、君たち一人ひとりの意識や使い方、トラブルは防

ぐことができます。海外では、十五歳未満のSNS利用を法律で禁止する国も出てきています。オーストラリア、フランス、アメリカの一部の州などです。世界中で、君たちと同じ世代の子どもたちがSNSの問題で苦しんでいるのです。

日本が同じ道をたどるとは限りませんが、それほど大きな問題として受け止められているということです。

どうか今日の話をしっかり心に刻んでください。学校にいる間は、SNSに振り回されるのではなく、自分の成長につながる時間の使い方をしてください。友人と連絡を取ること自体は悪いことではありませんが、その方法を間違えないようにしましょう。SNSの使い方ひとつで、将来の進路や人生が左右されることもあります。よく考えて行動してください。

そして、もう二度と、こうした話を私から直接しなければならぬようなことが起きないようにしてほしいと思います。先生からも注意を受けることがあると思いますが、

今日の話は、校長として皆さんに心から伝えたいことです。

どうか、SNSとの付き合い方を改めて見つめ直し、後悔のない学校生活を送ってください。以上で私の話を終わります。



ジャンボひまわり 2020. 8. 26

さくら並木 2025. 4. 9

コキア 2023. 9. 4

つつじ満開 2025. 5. 1

